
神の神聖騎士王は漢乃娘《オトコのコ》

マグマ フレイム

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

神の神聖騎士王は漢乃娘^{オトコのコ}

【Nコード】

N5993L

【作者名】

マグマ フレーム

【あらすじ】

神の世界、現代に生きる神によつて繁栄する世界の周辺世界で、神々が操る擬似生命体、通称『^{ハイフライフ}半生命』が暴走。それを止めるため、女顔の青年神は世界を駆ける！！

〈?〉 プロローグ

±

世界

それはページのような物。

一枚一枚がそれぞれ1つの“世界”、つまり宇宙だ。

1コマ1コマが星と言っていていいだろう。

そしてその1コマ1コマの絵…それが大地だ。

それら全ての世界を纏める物…

本

それは何なのか？

それは“次元”と呼ばれる。

次元を超える、つまり別の法則をした世界のルールを持つ者が別世界に飛ぶということだ。

世界には神がそれぞれいる、次元を統べる神は最高神と言つことだ。

次元によつてそれぞれ最高神には言い方がある。

創造神、世界神、真神王、思想神、次元神。

次元を探ればもつと沢山あるだろう。

ずっと昔、多くの次元は世界と世界を渡る時に知らない世界を見かける事が稀まれにあれば、空間の切れ目によつて異次元の事は知られていた。

だが神々は皆それぞれプライドが強い、だが共通点はあつた、正々堂々の戦いだらうと無かるうと、己を倒した者を尊敬する。

そしてそのような事が理由で隣接した次元は次々と戦争を始めた。

そして、多くの最高神を更に従える者…その名称を次元真神王と呼んだ。

次元真神王は全ての次元そのものから抹殺命令を出される程の力を持ち、それらを全て切り抜けた。

いや、ソレは違った、ただ力を持ちすぎて居たが為に次元そのものから敵視され、そこから逃れる為に戦い、そしていつしか次元真神王と呼ばれるようになっただけである。

そして、次元真神王は別名“真・最高神”、神々には皇王コウオウと呼ばれ崇められた。

まるで神々はスポーツ感覚のようだった、命が奪われるのが当たり前だと。

そんな神々に対して皇王と呼ばれた次元真神王はその神々の王になる気は全く無く、そのまま世界は戦争を続けているので会った。

だが、ソレを破壊する事が起きた。それはたった一人の精霊ですら無い者だった。

皇王と肩を並べたが、次元真神王は自らを最後まで王になる気は無いと良い、それに友として従い続けた。

だが、皇王に仕える神聖騎士王は全ての大切な者を守り通した騎士と言われる。

十

〈?〉 花見と不良

十

学校

休みの晴れた昼下がり、花びら舞い散る桜道。

空は青空、雲一つ無く、黒髪乙女はお茶を飲む。

柔^{やわ}い香^{かほ}りが鼻をくすぐり、3色団子を引き立てる。

『セイリュウテン 聖龍殿・ちゅうこうりつがくえん 中高両立学園』と言う名のこの世界は神々、精霊など
概^{がい}念^{ねん}人^{びと}が通う学校である。

畳を模した敷物に礼儀正しく正座をする少女。身長は165cm
かそこらだろう。目を瞑り、団子を串から歯で引き剥がす姿は可憐
で妖艶だと誰かは言った。

茶飲み茶碗に手を伸ばし、3回で丁度角度が180度回して一服。
「ふう……」と目を瞑りながら低い一声を零す。

そんな和やかな時間を彼女は過ごす……が、ソレを壊す輩が居た。

「お、可愛い嬢ちゃん俺達とお茶しない？」男がこの和やかな
雰囲気仲間6人を引き連れて壊した。

声をかけた男はツンツンとした金髪にグラス、ガラの悪い蛾の
ピアス、黒いランニングシャツには紫の線で描かれた口に出しては
いけ無い危険生命体『G』。ハッキリ言ってダサイ。

『ヴィキツ！！！』音はしないのだが、そんな音が聞こえそうな程、少女のコメカミに血管が浮き出た。

「なあ、そこで一人寂しくしてんじゃなくてよお」

「……………」すくつと少女が立ち上がる。

「お、一緒に」「行くわけ無いだろカス！！！俺は男だああ！

！！』『ドゴツ！！』オ、カーサアアアアアーン！！」

細くも筋肉が程よく付いた……………と言うか細く綺麗な豪腕によって吹っ飛ぶ男。

「部屋谷へやだにさああん！！！」額に“己”と描かれたスキンヘッド。

「てめっ！！」アフロ。

「コノ女アマ！！ ツペ」唾を地面に吐き出すロンゲ。

「俺達の兄貴を！」へチマ頭リーゼント。

「先輩を！」モヒカン。

「みんな、やっちまうぞ！！俺は逃げるけど」とパンチパーマ。

と、拳を振り上げて殴りかかってくる不良達。

「ダ、カ、ル、ア、ア、！！俺は男だああああ！！！」彼女、いや彼は怒る。

そして彼はロンゲの後ろに立ち、そいつの髪を掴んで木にぶつける。

「ぐああ！！」

「余話杉おきわさぎ！！」

「甘いぞ？」彼はいつの間にかモヒカンの後ろに立って言う。

「！！」驚く寸前でモヒカンは首に手刀を入れられ、気絶す

る。

「荒枷木！」
あらかせぎ

「余所見してんじゃねえ！！」彼は額当てを凹ませる程の思い切りの頭突きをした。

「うがあ！！」あまりの力で吹っ飛ばされ、気絶するスキンヘッド。額当ては凹んで“己”が“乙”になってしまった。

「日初！」
ひはつ

「まだ戦闘中だあ！！」彼はリーゼントに足払いをかけ、腹にボディーブローを入れる。

「ガアッ！！」

「オイオイ、コレでおしまいか？」彼はつまらなそうに言う。

「狩鞭！！」
カリベン っち、ウラオオオ！！」殴りにかかっていくアフロ。

「隙がありすぎだ！！」彼は拳一つで捻じ伏せる。長い黒髪が揺れる。

「アフロお！！く、逃げられねえ。 ん？ 紅い右眼と蒼い左

眼、左眼の下に泣き黒子、カチューシャに漆黒のヘアピンが7本！

！ 見た目はどう見ても黒髪長髪の美女……。ま、まさか……。」パンチパーマがいつの間にか目の前に居た彼に怯える。

彼は一步、また一步とゆっくり歩く。パンチパーマは怯えて後ろに下がるが、気絶していたロンゲにこけてとうとう逃げ道を無くす。

「おう、そつだ。俺が……」

次期『神聖騎士王』の日月ヒツキ 理雄兔だ!!!」

十

彼の自分の自己紹介で気絶していた奴が全員起き上がった。

この学校では有名な噂話が存在する。世界を軽々と作り出す神の子や、吸血鬼の神の癖して日に当たるのは好きだけではなく血液恐怖症、老若男女問わず性的対象に入れてしまふSMを兼ね備えた変態な神等々。

そして……神聖騎士王の称号を代々受け継ぐ者であり、幼い時に『神殺し』と呼ばれる神を殺そうとする団体や魔物、武器や道具、魔法などを示す物ばかりの世界を終わらせたと言う噂を持つ。オマケに正体を知ればガチホモ、男の娘好きな変態な男性にすら嫌われると言う特徴で、噂の変態な神ですら吐き気がしたとの事。

「「「「「も、もしかしてあ、あの『血まみれの姫將軍』!?」
「「「「「」

そんな大物に出会ったが為に彼らは汗だくで全員正座を شدした。
早速痺れ出した者もいる。

「何だその名は……」

「「「「「すみませんでしたああああああああああああああ
!!!!!!!」

「やつぱりな……、俺ってマジで怖がられる存在かよ……」。

「つてかよ、突っ込んで良いか？ まず金髪グラサン、お前らの苗字
『ヘヤダニ』つて……。次に『よわすぎ』『あらかせぎ』……スキ
ンヘッドの奴髪の毛が無いのに『びはっ』……。リーゼントで全然
勉強しない感じなのに『ガリベン』つて……」。

そして『アフロ』、お前だけ心配されて叫ばれた時に何でお前苗
字言われなかった!? 最後にパンチパーマ、お前最初に仲間置いて
帰ろうとしてただる……」

呆れる理雄兔だった。だが……。

「おい、そいつらが悪かったが、そこら辺にしてくれ。俺が後は
キツチリ話を付ける」と声が掛かった。

理雄兔が振り向くと、美男子が居た。長く金髪にしているがブラ
ックチョコレートのような茶髪が混じっている。金髪だが、ポニー
テールにしている侍のようだ。身長は153.4cmぐらいだが、
江戸時代では少し小さい程度だろう。

江戸時代は158cmが男性の平均身長です。

「お前は？」

「俺は華香良カカオ 恋焦愛ココア、コイツらのリーダー。つまりは番長って奴だ。名前の事は言うんじゃねえぞ？ 華が香り良い、恋焦がれ愛す何て名前だからって馬鹿にするな。母さんと父さんが俺の為に考えてくれた名前だからな。

年は15歳、高等部だ。 お前の名前は？」

「同級生で同じ年だったか。俺は日月ヒツキ 理雄兔リオト、リオでいい」理雄兔おとが言う。

「そうか、リオ。迷惑をかけた。特に余話杉よわすぎ！！ 第一条二十六号 街路又は公園その他の公衆の集合する場所で、淡、唾を吐いた奴は1000円以上1万円未満の科料に処せられ、前科として残る」

「す、すみませんでしたあああああ！！！」

「不良のリーダーの癖に刑法知ってるのか……？」 リオは不良のリーダーが刑法は守るってスゲエギャップだと思っている。

そんな時、突然ヒョコツと何処からか現れた前を一つに縛りアンテナの様にし、ガンガンに真つ黒ケシズミと言うか消炭のように黒い少女が恋焦愛ココアに後ろから抱きついた。

「ココたんのお父さんは警察を司る神様なんや！！ パパっ子でお父さんの仕事が好きやったから警察並に勉強してるんやで」と関西弁の黒い少女。

「ココたんはよせ……俺のプライドが……」折れる恋焦愛ココア。

「あ、癒恵ユメグ」リオが彼女に言う。

「おっすリオにゃん」リオに対して気軽に言う彼女。どうやら知り合い同士のようなようだ。

「にゃんは止める……そのアンテナ引っこ抜くぞ？」恋焦愛ココアと似たような事を言うのだった。

「ゴメンゴメン、リオにゃん」悪びれた様子の無い彼女。

「いや付けるのかよ!!! で、何でそんなに真っ黒なんだ?」と
リオ。

「と言うか志彫シエル、太ももが出すぎだ。第一条二十号で公衆の目に
触れるような場所で公衆にけん悪の情を催させるような仕方だ、も
もをみだりに露出させるのは違反だ」と、ミニスカートの下はすぐ
太ももだった。

ついでにだぼだぼのニーソックスと言うギャルギャルしているの
だ。

「2人からのダブルパンチ……。分かったで、ついでに2人とも
ユグって呼んでや?」

と、志彫シエル 癒恵ユメツが両目を閉じ、両手をパンツと叩くと体が美白に、
しかもスカートでは無く短パンに変わった。一応休みの日なので
制服は関係無い。

「じゃ、そろそろ俺は帰る。じゃあまたな?」理雄しおと兎は言った。

「ああ、多分もう会わないだろうがな」と恋焦コイヤ愛。

「いや、会うさ」

「あ? 何でそう分かんだよ、この学校は世界丸々一つ使ってる
からもう会わない確率はかなり高いぞ?」

「俺は感が良いんだ、お前とは会えそうな気がする」

「ほう、ならまたな?」

「ああ、またな?」

「コレが男の友情って奴なんや……ハアハアノノ」何か意味の
分からないユグ。

こうして、日月ヒツキ 理雄しおと兎はまたゆっくりと春を楽しむ――

「ふぐうー！ は、腹が……食中毒起したー！」

どっちら楽しめないようだ。

+

〈?〉 花見と不良（後書き）

ココたん「軽犯罪に関わる物の紹介だつてこの愛称は何だあ!？
ゆ、癒^{ゆめく}患!！」

ユグ「いやん、いやん。で、どう言っん？」

ココア「コホン。第一条四号 働く能力がありながら職業に就く
意思を有せず、且つ、一定の住居を持たない者で諸方をうろついた
者。

つまりはニートで自らホームレスな奴だな、それは軽犯罪つて事
だ。」

ユグ「つまりは、大人になつてもニートの奴を親が家から追い出
して自分で生きてや!！ ってやるのは最後の親の愛つて奴やね。」

ココア「『自分で生きる、それでも働かないなら軽犯罪で捕まれ。
』 ってか……?」

ココア「第一条二十号 公衆の目に触れるような場所で公衆にけ
ん悪の情を催させるような仕方、しり、ももその他身体の一部を
みだりに露出した者。」

ユグ「 ねえ、コレつて確か^{ヒツキ}日月家に一人居た気がするんよ？」

ココア「いや、もう一人女子でいる。変態野郎の微妙に腹違いの
妹だ。（母と異母が双子つて事。）」

ユグ「リオにゃんも大変やね……。」

ココア「第一条二十二号 乞食をし、又は乞食をさせた者。」

ユグ「え!?!?!? 乞食つて軽犯罪なん!?!?」

ココア「 もしかしてお前が考えているのはホームレスの方々
だろ? 乞食つてのは簡単に人から金や食べ物を買つてただ生きて
る奴、第一条四号と同じ感じだ。無論子供は関係無い。」

ユグ「刑法って色々あるんやね……。」

ココア「なお、一般市民にも逮捕権がある。現行犯逮捕は当然、逮捕令状が必要は無い。だが、直ちに警察官などに引き渡すことを条件に、一般人にも現行犯逮捕権が認められている。」

まず現行犯であることが、条件の一つだ。現行犯でなければ、たとえ警察官でも、逮捕するには逮捕状が必要と言ふ事を覚えるよ？
逮捕するには、「理由」と「必要性」が必要になる。したがって、被疑者に逃亡・証拠隠滅の恐れが全くない、またはなくなった場合、逮捕、そして勾留はできないことになるんだ。

この原則は、一般人逮捕の場合にも適用される。「理由」と「必要性」が無い状態では、ただの暴力となりますので、気をつけてくれよ？ 被害者を装った狂言に騙されて誤認逮捕なんてするのはヤバイけどな。

ユグ「でもそれで犯罪が減るんじゃないんか？」

ココア「だが大人が教育で教える事はそうそう無いだろうがな。」

十

読者さんからの編集を聞きました。

セリフの最後は「。」を付けない。

リオの容姿の説明は他のキャラが解説するのが良い。

無駄な説明の削除。

不良達がリオへ謝るシーンの説明。

〈2〉 ロクな事にならねえ……

デパート

日月^{ヒツキ} 理雄兎^{りおと}、容姿は女、性別は漢^{おとこ}、暁の空のような紅い右目と晴天を思わせる蒼い左目をしていて、左目の下には泣き黒子がある。

男性人気度は最悪でよほどの変態でも『うげえ！？ 朝っぱらからお前の顔なんて見たくねえんだよ……俺の性欲が全て萎えた。』
『などや、男の娘限定の変態でも』アレは男の子じゃねえ！！ 漢^{オトコ}乃娘^{のこ}だ！！ 見た目は良いけど吐き気がする……』など、何故か大体の男性は心……いや魂や、ソウルブラザーズと呼ばれる絆を通して彼と言う存在を否定する程のゴミクス扱いである。

そんな彼は今、血を分けた妹……日月^{ヒツキ} 飴媛^{しあん}の為に『魔法少女装 出沒注意』と言う無愛想な女顔青年が魔法少女になって、敵に対してカツコ良いセリフで敵を仲間にしていくなぜかギャグの癖に青春が入る漫画である。

中でも魔法少女の敵、魔族の教師をぶん殴った時に言った台詞は「俺はテメエらが魔族とか言う人外だから嫌いなんじゃねえ。 勝手にお前達が人間と魔族は共存できないとか勝手に壁作ってる……そんな情けねえ奴だから大嫌いなんだバカヤロウ！！」とか、凄^{すご}い熱血青春タイプである。

その物語には魔法少女の相棒がかなり種類がいるのだが、1番の不幸な可愛いキャラ……背中に蝙蝠の羽がついたゴマフアザラシっぽい妖精の『リヨウマ』と言うキャラ。

何故か仲間が避けた攻撃が当たったり、自殺しようとした人のクツションになつたり、枕にされたり、人の姿に変身すると白いロングヘアの美幼女なのだがその姿だと女の子達に貞操の危機の目に

遭わされたりだ。

愛らしい見た目の割りにロクな目に遭わない可愛そうな子なので大人気となった魔法少女の相棒キャラ。実は戦闘力は半端では無いはずだが、周りがバケモノ揃いで追いつけず、ヤムってしまった可愛そうな子。

「んつたく、えつと原作と10倍サイズの抱き枕だったな。あゝ、これだ」

リオはそう言って新商品と書かれた台の上にあったアザラシの又イグルミ(1m)の前でパチンと指を鳴らすと、それが浮き上がってカウンターに置かれた。

「29,800円でございます」

「(高っ!!) うう、俺の金が……) えつと3万と800つと」

「3万800円お預かりし、1000円のおつりです。ありがとうございます」

「どうもつと。(やべえ、今の定員の胸のサイズはDカップはある……あゝ胸……ペタン娘も良いが、メロンも良いな……)」
つと言つ彼の従妹にはEカップバストの白いツインテールでツンデレ……いや、ただ自分の胸が邪魔でカリカリイラつている子を感じ出した。

「アイツの事を思うとあるのはちょっと……やっぱ何事も程ほどが良いな」

とそんな事を考えていると、ジュエリーショップで爆発が起きた。

「強盗だあ!! お客様は逃げてください!! 警備員が来ますので落ち着いてください!!」

「邪魔だガキい!!」

強盗らしき男は近くにいた150?強ほどの少年に魔力で燃え上

がるナイフを向け……。

「い……」

彼が何かを呟いたと思った瞬間……ナイフは彼の手に収まり、男はいつの間にか檻に入っていた。

「な、何だよこれ！？ てめー！！ 正義ツラしてんじゃねえ！！ 逮捕令状なんて無いだろ！！」

「般市民にも逮捕権がある。現行犯逮捕は当然、逮捕令状が必要は無い。だが、直ちに警察官などに引き渡すことを条件に、一般人にも現行犯逮捕権が認められている。」

生憎と警察官はお前が俺にナイフを向けた瞬間0.3秒で連絡した」

「バカな！！ 携帯電話何て無かっただろ！？」

「雑魚が、大半の神秘学の初歩である念話ネンワがあるだろ？ この近くの警察署は俺には馴染みでね、お前達みたいな奴らをよくとっ捕まえるからコンマ1秒で通報さ」

声を荒げる男に対して少年は朝飯前どころか呼吸するのに等しいと言わんばかりである。

「くっそお……」

男は悔しがる、せっかく魔力の溜まった宝石を他の世界で売りさばこうとなど、他には何でこんなガキに、案外簡単に引っかけたなとか。

「引っかかった？」

少年がそう呟いた瞬間、少年と男の位置が変わった。

「ど、どう言う事だ！？ なぜ俺がこの場所に入ってるんだ！？

あ、開かない！？ 俺が作った物が何故だ！！」

「フへへ、俺は宝石の中に『場所交換』ポイントチェンジャーと呼ばれる移転魔法がかけられたもんがあったから使ってやったんだ。それと強化の魔法をかけられるアイテムもな。

このデパートじゃ力が全く使えないから直ぐ側、つまりは檻越しの相手程度なら難なく交換できるんだよ。で、お前が『《キンジ》』って組織が探していた奴だな、これで俺は大金持ちだ！！
フへへ」

「っ！ く、周りの事を気にしすぎて自分が狙われている事を忘れるとは……」

「ふへへへへ……がはあ!？」

「隙がありすぎだ、警察が来るよりもコイツが言う組織が来るだろ？ — 先ずコイツは警備員に預けてデパートから出る」

「ああ、分かった」

公園

のどかな雰囲気です。リオと少年が息を切らしていた。少年は自動販売機に向かう。

「はあー、はあー……ここまで来れば、安全だな、何か飲むか？」少年が自動販売機をどれにしようかと決めている最中に聞く。

「いや、俺は要らない。で、華香良……お前はなに追われているんだ？」

リオが、そう聞いた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5993/>

神の神聖騎士王は漢乃娘《オトコのコ》

2011年8月3日16時14分発行